

特色ある学校

人間性豊かなスペシャリストの育成を目指して

—ものづくり，作品制作を通した人材育成—

香川県立高松工芸高等学校長 塩崎 潤

1. はじめに

本校は，明治の中期から後期にかけて工業・工芸学校の必要性を説き，日本各地でその創設に力を注いだ納富介次郎先生により，金沢工業学校（現石川県立工業高校），富山県工芸学校（現富山県立高岡工芸高校）に続き，明治 31（1898）年，「香川県工芸学校」として創設された。

創立当初は，木材彫刻，用器木工，彫金，漆工，描金の 5 課程あり，最初の入学生は，本科（4 学年制）55 名，速成科（3 学年制）15 名，専科 20 名の合計 90 名であった。

その後，時代の要請等により学科の新設・改編があり，現在では工芸科に加え，建築科，機械科，工業化学科，デザイン科，電気科，美術科が設置されている。また，昭和 23 年には定時制課程も併設された。校名もいくつかの変遷の後，昭和 24 年に「香川県立高松工芸高等学校」となり，現在に至っている。



写真 1 正門から見た現在の校舎

創設当初からある 5 つの課程は，現在も工芸科の漆芸・金属工芸・インテリアの各コースの中で生き続けており，国内のみならず世界の美術・工芸界に大きな足跡を残した方や人間国宝の方も輩出している。

現在，本校は香川県の県庁所在地である高松市の中心部にあり，全日制 7 学科，定時制 3 学科を置き，全校約 880 名の生徒が在籍している。

今年度，創立 122 年目を迎える香川県内で最も歴史と伝統がある工業高校であり，地元では「工芸高校」と呼ばれている。



写真 2 工芸科（漆芸コース）の実習

2. 学校の概要

本校に校訓はないが，基本方針は「**自^じ彊^{きやう}して息^{いき}まず**の精神の涵養を柱として，家庭や地域社会と密接に連携を図りながら，心身ともに健全で，創造力に富み，社会に貢献できる人間性豊かなスペシャリストの育成に努める」と定められている。「**自^じ彊^{きやう}して息^{いき}まず**」とは，「ひと時も

休むことなく自ら努め励む」という意味で、校歌にも「我らは自彊^{じきやう}やまざらん」と謳われており、校歌が作られた創設当初の時代から、この言葉は工芸生のモットーとして、学校生活のあらゆる場面に脈々と受け継がれている。

全日制課程には、工芸科、デザイン科、機械科、工業化学科、建築科、電気科、美術科の7学科があり、工芸科は1年生の2学期から金属工芸・漆芸・インテリアの3コースに、機械科は2年生から機械・電子機械の2コースに分かれて学習をしている。定時制課程には、インテリア科、機械科、建築科の3学科があり、各科それぞれ専門に応じた授業が行われている。

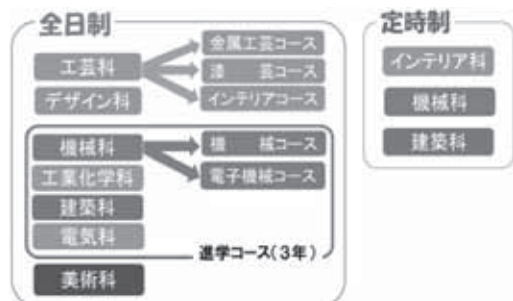


図1 本校の学科・コース

また、全日制課程には運動部が14、文化部・同好会が15あり、自転車競技部、ボクシング部、ヨット部、水泳部は、毎年インターハイや選抜大会などの全国大会に出場し、輝かしい成績を収めている。文化部・同好会も盛んに活動が行われており、ロボット部は高校生相撲ロボット全国大会、高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会、マイコンカーラリー全国大会で優勝するなど活躍している。また、香川漆器の良さをPRする「クリエイティブ7」というユニークな部活動もある。

3. 特色ある取組

(1) ロボット競技大会やコンクールへの参加

毎年、全国的な規模のロボット競技大会へ参加し、昨年度は高校生ロボット相撲全国大会ラ



写真3 高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会

ジコン型の部で全国準優勝になった。過去には高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会で6回(第2, 6, 7, 8, 11, 13回)の優勝(文部科学大臣賞)やジャパンマイコンカーラリー全国大会 Basic Class 優勝(H28)など、全国規模のロボット競技大会で大きな成果を収めている。

また、全国的な公的機関の公募する各種ポスターコンクールやマーク・キャラクターデザイン等に作品を出展し、「環境教育ポスターコンクール」で文部科学大臣賞、「山火事予防ポスター」で林野庁長官賞、「WE LOVE トンボ」絵画コンクール・「山火事予防ポスター用原画」・「薬物乱用防止ポスター」・「明るい選挙啓発ポスター」で文部科学大臣賞、瀬戸内環境保全月間ポスターで環境大臣賞を受賞するなど、継続して全国的な規模のポスターコンクールでも大きな成果を収めている。



写真4 明るい選挙啓発ポスター

(2) 専門家による講演会や実技指導

本校では、県のキャリア教育充実事業を活用し、芸術家や各専門分野で活躍している方を招き講演会を実施するほか、高度熟練技能者からも技術指導を受けている。第一線で活躍されている方の話や指導は、生徒にとってもものづくりや資格取得の意欲を高める上でも活かされている。

芸術系学科の作品制作では個人のアイディアを大切にしながら丁寧な指導を行うとともに、全国の有名美術系大学の教授による出前授業を頻繁に実施したり、世界的に活躍しているグラフィックデザイナーを招いてワークショップを実施したりするなど、大学等との連携による技術向上にも努めている。さらに、映像、テキストスタイル、版画、インスタレーション、アニメーション、空間デザインなど、様々な生徒の進路希望に対応するため、課外などを利用してきめ細かな指導を行っている。



写真5 専門家による出前授業

(3) 難関の資格・検定試験に多数合格

危険物取扱者や技能士、電気工事士といった基本となる資格を多くの生徒が取得しているが、高校生では全国でも合格者の少ない「ダイオキシン類関係公害防止管理者試験」で連続して合格者を出すほか、「レタリング技能検定1級」でも毎年合格者を出し、文部科学大臣賞を受賞したこともある。また、「トレース技能検定1級」でも多くの合格者を出すなど、各種資格取得等においても大きな成果を収めている。

(4) 学科の枠を超えた創造性を育む教育

本校では全7学科（芸術系3学科、工業系4学科）が、それぞれの専門分野を活かしながら横断的に協力してものづくりをする体制ができおり、「クリエイティブ7」という部活動を中心に、生徒と教員が一緒になってものづくりやPR活動などに取り組んでいる。主な活動として、伝統的工芸品である香川漆器の振興やPRを大きな目的として、関係団体等と連携して新たな需要を開拓するための新商品の開発や地域ブランドとのコラボレーションなどを行っており、マスコミなどにも数多く取り上げられている。

校内においては、漆を中心に据えて、他の学科がどういった形で関わっていくことができるか、様々なアイディアを出しあいながら、学校全体でものづくりを通して創造性を育む教育を行っている。たとえば、漆と化学樹脂を混ぜた素材を活用し万年筆を制作したり、機械科で作った製品に漆を施してみたり、デザイン科はPRのためのキャラクターを考案したりといった活動などを行っている。

また、毎年1月には、東京新橋にあるアンテナショップ「香川・愛媛せとうち旬彩館」で、生徒が制作したお椀やタイピンなどの身近な漆芸作品を展示・販売し香川漆芸をPRするイベントを定期的に開催している。また、栗林公園にある「かがわ物産館栗林庵」でも、一般の方々を対象として、漆を使った作品づくり「漆ワー



写真6 せとうち旬彩館での販売実習

クショップ」を定期的で開催している。

(5) 地域企業等との連携

① 香川県漆器工業協同組合との連携

漆器組合が主催する「香川の漆器まつり」や「家具とぬりもの見本市」に生徒作品の展示を行っており、一般の方や関係企業に本校の活動を広報する良い機会となっている。そうした中から、企業からの共同開発の申し入れなどがあり、ものづくりの活躍の場を広げるきっかけになっている。

② 地元企業との連携（盆栽、庵治石、仏壇、炬燵等の共同開発）

各種イベントへ出展したりメディアに取り上げられたりすることで、本校のものづくりの取組や技術力は広く知られてきた。その結果、様々な業種の企業や団体等から問い合わせが来るようになり、幅広い分野で協力してものづくりを行うことができる。生徒が考えた盆栽台を制作する過程が地元テレビ番組で取り上げられたり、地元の石材産業との連携では、庵治石に漆を施したコースターづくりにはじまり、石材の町・牟礼町の地域振興企画「むれ源平石あかりロード」へ企画段階から参加し、作品制作や展示などを行い好評を得た。

本校には、「Nex Lab」というクリエイティブ7の活動のための施設があり、レーザー加工機や3Dプリンタなどの設備を有効に活用し「ものづくり」を体験することにより、伝統工芸や科学技術に対する関心を高め、ひいては未来の創作者・技術者を育成するという意味合いでも、地域への貢献を果たしている。

4. ものづくり日本大賞文部科学大臣賞受賞

これまで述べてきた活動が評価され、本校は令和元年度に「第8回ものづくり日本大賞文部科学大臣賞」を受賞した。2年に1度のこの賞を本校がいただいたことは、非常に名誉なことと感じるとともに、生徒や職員にとっても大き



写真7 ものづくり日本大賞

な自信と誇りにもなり、また、色々な場面での本校のPRにも役立っている。青少年支援部門ということで、生徒を対象としたものづくり人材の育成における功績が評価されたものだが、先生方の熱心な取組、それに応える生徒の意欲や根気強さ、そして各学科を超えた協力体制という総合力があつてのことと考えている。また、そういった活動に理解とご支援をいただいた保護者、同窓会、教育委員会のおかげとも考えている。

5. おわりに

本校は今年度創立122年目を迎え、卒業生は3万人を超えるが、基本方針にある「自^じ彊^{きやう}して息^{いき}まず」の精神が脈々と引き継がれ、工業、工芸、美術といった幅広い専門教育の中で、ものづくりや作品制作に取り組み、地元はもとより、国内外に多くの有為な人材を輩出してきた。

今後も、この歴史と伝統を絶やさぬよう知識や技術の伝承に励むとともに、創造性を育み、新たなことにも積極的にチャレンジしていくことで、美術工芸界や産業界で活躍する人間性豊かなスペシャリストを育成し、同時に、地域に愛され、地域に貢献できる学校を目指していきたい。